

## Ⅱ 拠点校の取組 研究開発実施報告（概要）

### 〔1〕拠点校について

拠点校は、単位制普通科で併設型の中高一貫校である。高等学校は1学年7クラスで、そのうち3クラス分が併設中学校から、4クラス分が一般の中学校から進学をしてくる。併設中学校では、先取り学習をしていないため、高等学校では内進生と外進生のミックスホームルームとなっている。また、高等学校の1人1台端末については、クロームブックを令和2年度入学生から導入しており、現在、1・2年生が授業等で使用している。

「未来の岡山と世界の Well-being（すべての人が身体的・精神的・社会的に幸福）の実現に貢献するグローバル・リーダーの育成」をめざし、拠点校が目指すグローバル・リーダーの6つの資質・能力を次のように定めた。

#### ○幅広く深い教養

グローバルな課題を理解できる国際的な素養がある。

#### ○課題発見・解決能力

グローバルな視点で課題を発見し、論理的に解決策を考え、発信することができる。

#### ○新たな価値を創造する力

既存の価値を融合し、自由な発想で新しい価値軸を創ることができる。

#### ○主体的に行動する力

目標に向かって自主的に考え、自律的に判断し、決断したことは積極的かつ誠実に実行し続けることができる。

#### ○他者と協働する力

自己を理解し自立した人間として、他者と共に心を通じ合わせてよりよい社会の実現を目指そうとすることができる。

#### ○自他を尊重する心

社会における自己を認識し、自他の存在意義を認めることができる。

また、マインドセットを『和して流れず』の精神を継承し、幅広い教養を身に付けた上で、異なる文化や考えの人とも協働しながら、自己のアイデンティティを持ち、主体的かつ積極的に世界の課題に挑戦し、岡山と日本の未来を切り拓くグローバル・リーダー」とし、探究型行動を「様々な社会課題を自分たち自身の問題として捉え、『すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福"Well-being"な社会の実現』を目指し、自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダー」とした。

6つの資質・能力を育成するために、取組の4本柱として「未来航路」「SOZAN STEAM」「SOZAN 国際塾」「GLOBAL STUDIES」があり、これらに「日頃の授業」を加えることで、学校教育全体を通して6つの資質・能力の育成を図っていく。

※「未来航路」総合的な探究の時間の校内名称。

「SOZAN STEAM」学校設定科目であり1年生1単位で実施。

「SOZAN 国際塾」課題研究等を極めたい生徒の集まりで放課後等に活動。

「GLOBAL STUDIES」授業改善等に向けた取組。



## 〔2〕 研究開発単位Ⅰ「未来航路（概要）」

### （1） 1年生

1年生では、「グローバルな視点を持ち、国内外の諸問題に対する意識を高める」、「異なる意見を受容し、自己の考えをわかりやすく他者に伝える」を目標として、講演やグループワークを通して6つの資質・能力を身につけ、課題研究を行うのに必要な基礎力を養成した。

年度前半は企業人を講師としたグローバル講演会を開催し、その後グループワークを行った。  
・株式会社 力の源ホールディングス 矢野亮太氏による講演

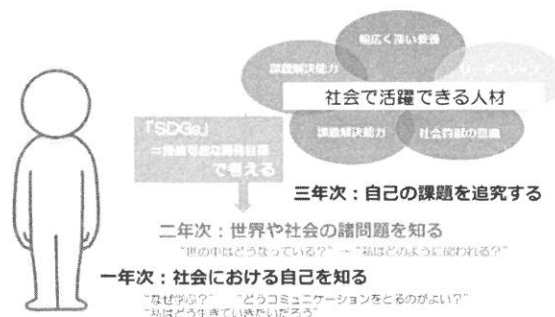
「グローバルな視点を持つこと」と「グローバルな社会課題を知ること」の大切さについての講演であった。講演後は関連教材として、ビジネス課題（海外戦略）の視点から「課題発見・解決力の育成」も目的に「ラーメンで世界進出」という教材開発を行い、取組を行った。生徒にとって身近な「ラーメン」をいかに海外で売り込んでいくかという課題に対して、文学系統、工学系統等8系統で研究を行い、Google Chromebookのスライド機能を用いて班で発表を行った。入学後間もない生徒にとってビジネス課題を考える（発見する）のは大変であったが、生徒の感想の中には「価値観は異なる国、個人によって異なるということがわかった」「異なる学問系統でも共通した考えがあるということに気づいた」等、社会の構図に触れたものも見られた。

年度後半は「課題研究の進め方」という演題でノートルダム清心女子大学の森泰三教授に講演をしていただいたのち、課題研究に向けて身の回りの課題や社会課題等、各自が「気になる課題」を考える時間を設けた。その後、各自の課題がSDGsの17のどの目標項目と関連があるかを生徒たちが自ら考え、共通項を見出し、分類した。主体的に課題研究に取り組む姿勢を養い、皆が納得のいく班編成ができた。班編成ののちはクラスの枠を超えた班による課題研究がスタートし、テーマ設定に向けて話し合いを行った。12月には生徒が考えたテーマ設定案に対して大学教授から各班に対して指導助言をいただき、テーマの再考を行い、年度末の研究計画書作成に向けて話し合いを継続した。

一人一台端末導入2年目の学年となり Google Chromebook を活用した様々な活動を通して ICT 機器活用能力は身についたと思われる。一方で、同じ空間にいながら他者と関わろうとしない場面も時折見られた。班で課題研究を行っていくうえで、いかにグループを機能させるかが今後の最重要課題である。また、端末が常に利用できる環境で、教員がいかに課題研究の指導に関わっていくかも引き続きの課題である。

### （2） 2年生

下図のように、2年生では「世界や社会の諸問題を知る」ことがテーマとして、世の中はどのようなものか、自分はどのように関わることが出来るのかを課題研究を通して学んでいくことで、6つの資質・能力を身につけ、社会で活躍できる人材を目指す活動を年間通じて意識して取り組んでいる。



昨年度の2年生までとは年間計画が見直され、1年生9月から課題研究が開始されている。2年生10月までは、課題研究を実施し論文を完成させる。そして、11月以降は、課題研究で身に付けた知識やSDGsの視点を活かすディスカッションを実施した。

2年生の課題研究は、1年生で設定したテーマに基づいて研究を進めた。SDGsの17の目標を“Life”“Welfare”“Environment”の3分野に分け、SDGs「目標3 すべての人に健康と福祉を」と関連づけて行い、5人程度のグループを作成し、今年度2年生は71班と国際塾4班で研究を進めた。そして、SDGsを柱として大学・企業等と連携を進めながら、調査・実験・分析等を行い、課題についてより深く向き合っていくことを目標として研究に取り組んだ。昨年度から新型コロナの影響により、実際に企業や大学と連携を深める機会が狭まったが、2年生は1人1台Chromebookを所有しているため、オンラインを通じて連携しやすい状況もつくることのできた。大学との連携では、今年度は岡山大学・岡山県立大学・環太平洋大学・ノートルダム清心女子大学から大学教授等をアドバイザー・スタッフとして2年生では2回、5月と7月に招き、サポートを依頼した。

11月以降実施のディスカッションについては、パブリック・コメントを作成する活動を行った。「すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福“Well-being”な社会の実現」を目指し、生徒一人ひとりが幅広い教養を身に付けた上で、未来航路の活動を通して、自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現していく力を備えたグローバルリーダーと成長して行くことを目指して活動を展開した。行政の基本的な政策や制度を定める条例に対して、課題研究で身に付けたSDGsの視点をもって検討することで、より良い社会の実現を目指す生徒を育成することを目標とした。

パブリック・コメントについて学ぶ「パブコメ基礎」を3時間設定し、実際にパブリック・コメントをクラスで4人程度にわけた班で一つのパブリック・コメントを作成していく「パブコメ発展」を3時間設定し、合計6時間かけて取り組んだ。知識や読み方については、パブリック・コメントの普及活動を実施する個人事業家の方と、岡山市役所でパブリック・コメントを周知し収集する広報広聴課の方に依頼して、講演会を実施した。「パブコメ基礎」の3時間目では生徒が司会進行し、パブリック・コメントを読む視点について講義した。

### (3) 3年生

3年生の「未来航路Ⅲ」は選択科目である。選択した生徒の進路希望の学部・学科に関連した学問領域を意識しながら、課題研究をより学術的に客観データの収集・分析・表現、内容の論理的展開に重点を置いて指導した。選択者は1名で、「若者のボランティア参加促進のためのSNS利用」というタイトルで課題研究を行った。

進路希望と関連付けた学術的な課題研究を目指すために、次のような手順を進めた。

- ・研究内容のキーワードを考える。
- ・リサーチクエスチョンを設定する。
- ・先行研究・事例（「CiNii」「Google Scholar」）を考察する。
- ・仮タイトル、目的、方法について検証する。
- ・研究計画書を作成する。
- ・文献調査等を行い、考察する。
- ・研究論文を作成する。
- ・「まとめ」の内容と「目的」について整合性を考える。

SNSマーケティングについて書籍で独習する等、将来の学びに直結した内容について主体的に取り組む姿勢も身に付けることができた。一方、課題としては、選択者が1名であったことから生徒同士でディスカッションし、思考を深める活動はできなかった。